1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401764		
法人名	社会福祉法人 北串会		
事業所名	グループホームかをり		
所在地	長崎県雲仙市小浜町山畑3144		
自己評価作成日	令和4年 11月 30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かをりは、自然が豊かで静かな場所にあり、一年中綺麗な夕日を眺めることができる風景があります。敷地内で家庭菜園を行っており、利用者の皆様と共に多種類の野菜を育てつつその成長を楽しみながら菜園の野菜を収穫し、また食しながら、季節を常に感じられる雰囲気作りを行っています。また同法人である北串保育園の園児たちとの定期的な交流会があり、お互いの行事に月に一回は参加・訪問することで、高齢者の利用者と子供達とが接する機会が多いことが魅力の一つです。近所の方や近隣の小中学生らとも行事等での訪問があり、地域との交流も深めています。そして、共用型デイサービスも開設しており、たくさんの方々に来訪して頂けるようにスタッフ全員が利用者・家族に丁寧に接しながら、利用者一人一人に応じた個別な介護を実施し、笑顔と笑いのたえないホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、仏教の教えを根拠とし、運営理念に、清浄心、安心、和合心を掲げている。利用者は、毎日リビングの仏壇に手を合わせている。浄らかな心で利用者の支援に臨むという理念は、誕生日のプレゼントに涙する利用者の姿にも表れている。新型コロナ禍にあっても、初詣や神社の祭りに出掛け、車で花見や紅葉見物、近隣の名所など利用者の笑顔を引き出している姿勢は高く評価できる。近隣の農家から野菜の差入れが届いたり、消防訓練にも毎年地域住民が参加している。また、法人内の保育園との交流を年間を通じて継続しており、地域に根ざしたホームである。家族との面会にタブレット端末を使用する他、職員間で利用者の受診結果や委員会報告等、情報の共有に活用している点や新人職員を丁寧に育成する仕組みが整い、有資格者が多いことは特筆すべきである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで作った理念を、毎朝の申し送りで読み上げ、一日の実践に繋げている。	介護理念「目くばり気くばり心くばり」を毎朝唱和することで、職員は常に理念を意識した利用者支援に努めている。ホーム内に掲示し、新人職員には理事長等が説明しており、職員会議で共有を図っている。利用者が住み慣れた地域で穏やかに過ごせるよう理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元行事には積極的に参加しており、地域の方に定期的に行事への参加を案内している。また日常的に気軽に近隣の方とも利用者・職員共に進んで会話する姿がみられる。自治会にも参加している。	自治会に加入し、回覧板を回す他、職員が地域清掃に参加している。日頃から散歩時に近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、農作物の差し入れや避難訓練への参加があり、地域との繋がりは深い。法人内保育園とのプレゼント交換や行事のライブ配信は利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々で行事等で関わってもらうことで、認知症について少しずつ理解してもらえていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開いており、各委員との意見交換を行い、他の職員も議事録等での意見を共有することで、サービス向上に活かしている。ご家族にも内容を報告してる。	年6回、規定のメンバーで従来の対面での会議を実施している。ホームの状況報告の他、意見交換を行っており、家族代表の交代により、新たな考え方や意見を得てサービス向上に活かしている。議事録は全家族に送付し、ホームでの取組みを伝えており、運営の透明性が確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小浜町地域ケア会議に参加し、他の介護事業所や包括支援センターとの事例検討会を行っており、ときには当ホームの事例についても相談・意見交換していただいている。	地域ケア会議に職員が参加し、地域高齢者の困難事例等話し合い、地域の状況を共有している。管理者は行政窓口にて医療保険や介護保険の更新申請を行ったり、不明な点を尋ねている。定期的に担当課職員が利用者の面会に訪れており、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学んだりして、身体拘束をしないケアを目指している。玄関のカギはかけずに利用者の行動を見守るケアをいっている。	指針を整備し、3ヶ月ごとに開く身体拘束適正化委員会の中で勉強会を開いている。外部研修の受講や他事業所からの資料を活用し理解を深め、拘束のない支援に取組んでいる。昼間の玄関施錠はなく、外に一人で出た時は一緒について行っており、地域住民の見守り協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から虐待にならないケアを心掛けており、入浴の際には身体の確認を行っている。研修にも参加するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で学ぶ機会はあるが、できるだけ研修会に積極的に参加して学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず契約書、重要事項説明書の内容の説明を行い、理解してもらえるように分かりやすい言葉で説明しており、また質問があれば分かりやすく伝えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族と積極的に会話を持つようにし、意見などがあればミーティング等で話し合い、運営に反映させている。	毎月、担当職員が家族に郵送している便りや写真は、本人の暮らしぶりや病院受診の結果がわかると好評である。新型コロナ禍の中、家族とは窓越しの面会やタブレットを活用してコミュニケーションを図っている。利用者からは、買いたいものや食べたいものの希望が出ており、職員が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見などは個別に聞くようにし、反映させている。職員が意見をより多く話せるようにしている。	職員間の情報の共有の手段として、タブレットを活用している。また、各委員会の担当者は、施設長に毎日連絡を使用しており、共有の仕組みが確立している。新人職員を採用した際は、「業務確認シート」に先輩職員が毎日助言を記入し、育成に力を入れており、入社後に資格を取得した職員が多く出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り希望などは聞くようにしており、職員が向上心を持って働けるように職場環境・条件(給与や勤務体制等)の整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容に応じて職員に参加してもらっており、ミーティング等で報告したり、また毎月のミーティング時に施設内研修も行って、職員全員の知識、スキルアップに繋げている。新人職員には業務確認シートを作成し一日の反省と助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMでの交流会や勉強会に参加して情報交換したり、アドバイスや相談を受けながら、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時及び、普段から会話をもち、ゆっくりと時間をかけ要望を聞き、良い関係を作れるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時はもちろん入居前より、家族と積極的に会話を持つようにし、気軽に話せるような関係づくりに務めている。そして、本人の支援には家族の協力が一番大事だということを理解してもらい、可能な限り家族の意向に添えるようにしてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人、家族の要望と状況を把握し、話し合い、サービスを検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き、掃除など、できる範囲で一緒に行ってもらい、家庭的な日常生活を送ってもらえるように務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際などに、こちらの要望なども伝え、相談しながら家族の協力も得て、共に支えていけるような関係を作れるように務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や墓参りや友人の窓越し面会にドライブで出かけるなど、関係が途切れないように継続の支援を行っている。	新型コロナ禍の中、家族とは窓越しの面会やテレビ電話を活用し、関係継続を図っている。また、職員が墓参りの支援も行っている。リビングの仏壇に毎朝手を合わせ、神社の祭りの見学にも出掛けている。新聞を読み、洗濯物干しを手伝う利用者がある等、入居前の生活が継続できるよう配慮を行っていることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの毎日の様子を観察し、発した言葉に耳を傾け、孤立や対立が無いように配慮し、利用者同士が関わりあえるように務め、それぞれのペースを考えながら、利用者同士の交流が楽しく行えるようにレクリエーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人の様子を伺いに行ったり、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から要望を聞き、意向の把握に努めている。また、利用者の「私シート」を作成し、ミーティング等で意見を出し合い検討している。	入居の際には、本人・家族から生活歴や嬉しいこと、不安なことを聞き取り、基本情報シートに記録している。いつもと違う表情の利用者には、職員が寄り添って不安な思いを聞いている。難聴の利用者には、筆談でコミュニケーションを図っている。新しい情報はタブレットを活用したり、その都度職員が集まり、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より本人、家族からよく聞きだし「入居者情報シート」を作成し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方、心身状態など観察・記録し、職員間の申し送り等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、日頃の気づき・課題について担当職員が報告し、ケアマネジャーが判断し、モニタリング評価表を基に計画書を作成している。家族の要望は面会時や電話で聞き、計画書に反映し同意を得ている。	入居前に本人・家族から生活歴等を聞き取り、1ヶ月の暫定プランで状態を把握し、介護計画を作成している。担当する職員がモニタリングを行い、3ヶ月毎の計画見直し時にカンファレンスにて状況を報告し検討している。本人の意向と電話や面会時に把握した家族の要望を汲み、医師等の意見も取り入れ現状に合った計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人を記録を作成しており、細かい変化などは特記事項として記録し、職員間で情報提供して、各自目を通して		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の希望や状況に応じて、受診関係など医療連携に通じていて、医師・看護師による支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、避難訓練に近隣の方々にも参加してもらうなどして関わりを保ち、心身共に楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医と連帯を取りながら、受診・往診し、医療面での支援を行っている。	本人・家族の意向に沿い、受診支援を行っており、現在は職員が同行し、家族が付き添うこともある。定期往診を受ける利用者もいる。週1回訪問看護師が訪れ、健康状態の確認や医療面での気づきを医師に伝えている。毎月の便りの中で家族に受診報告を行っている。職員は緊急時の対応を把握し、適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として看護師に利用者の健康チェック・指導を受け、また気づきを報告し、相談しながら、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、面会に行き、随時本人の状態を病院や家族から聞き、退院に向けての情報や退院後のアドバイス等の情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と看取り同意書を交わし、状態の変化に応じて、医療機関や看護師と連帯し、家族の希望に沿った看取り支援を行っている。また職員間では、看取りに関する勉強会などに出席して、意識を高めていけるよう務めている。	重度化の指針を作成し、入居時に看取り介護についての同意書を得ている。状態の変化に応じて主治医と話し合い、家族に意向を確認している。これまでに看取り支援の事例があり、理事長が枕経を唱えホーム全体で見送っている。看取り支援に取り組む際には勉強会を開き、家族の気持ちに寄り添い、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルや緊急時連絡網を作成し、すぐに医療機関へ連絡するようになっている。また、消防署職員による初期対応の訓練を受けているが繰り返し練習する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回、消防署職員の指導の下訓練を行い、地域の方にも年一回合同避難訓練に参加してもらい、協力体制を確認している。行動が身につくように今後も継続して行う必要がある。	毎月消防訓練を実施し、毎年消防署立会いの下、地域住民合同の避難訓練を行っている。通報や初期消火、夜間想定や地震想定等の訓練があり、訓練後の評価と反省を次の訓練に活かしている。避難後の居室の確認方法も工夫が見られる。食料等の備蓄を確保している。ただし、非常持出の利用者情報については、現在検討中である。	有事の際に持ち出す利用者に関する必要な情報について、管理方法等工夫や検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい方言を使いつつ、丁寧な言葉遣いを心掛け、大きな声で話さないようにし、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員の採用時に、守秘義務の誓約書の提出を義務付け、施設長が講話を行っている。利用者の呼び方は苗字にさん付としている。職員の声のトーンについて「小さな声で」と標語を貼り出しており、尊厳に配慮していることが窺える。ただし、便りに使用する写真について、家族から口頭で許可を得るに留まっている。	利用者の写真を使用する機会はさまざまである。写真使用について、家族の同意を得る方法を改めて検討し改善することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えたり、態度に表した時は、選択肢が持てるように声掛けしたり、ホワイトボードなどで本人の意志をくみ取り、決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣ごとや行事に関して、本人の気分や体調や希望に合わせて優先順位を変えながら支援している。習慣になっている日々の手伝いなどもあるが、その日の本人の意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは好みを聞いたり、朝は寝ぐせを直すなど足りないところは支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、献立を考え、ホームの家庭菜園で収穫した野菜や旬のものを提供している。また誕生日やクリスマスには行事を感じられるメニューを提供し、楽しく美味しく食してもらえるように務めている。	食事は、冷蔵庫の食材を見て職員が調理しており、農家から差入れの野菜を使うこともある。キザミ、トロミ食にも対応している。大根や柿を庭先に干し、季節感を大切にしていることが窺える。誕生日にはケーキで祝い、ホーム内ピクニック、敬老会のお弁当、お好み焼、巻き寿司と利用者の笑顔を引き出せるようさまざまな工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録し、一日を通して確認できるように調整している。一人一人の状態や習慣に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操、食後には歯磨きをしてもらい、一人一人に合わせて、介助を行っている。また、月に2回の歯科による口腔チェック・ケアも取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、排泄パターンを把握し、必要時に声掛け、誘導を行い、失敗を少しずつ減らせるように支援している。またできるだけ見守りし、自立できるように支援している。	昼間は、トイレでの排泄を基本とし、ポータブルトイレは夜間のみ使用している。昼間使用しないポータブルトイレは布でカバーし、トイレのパッドの収納棚にはカーテンを掛ける等、羞恥心に配慮している。失敗した際は、優しく誘導し、自尊心を傷つけないように支援している。車椅子の利用者は、職員2名で介助し、安全面に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った食事を考え、工夫し、水分摂取は1日1000cc以上を目標とし、運動の働きかけも行い、自然排便へと取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別に曜日を決めた入浴は行っていないが、一人一人の希望やタイミングに合わせて声掛けし、入浴してもらっている。状況に合わせて、入浴順序を考えて、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。	風呂は毎日準備し、週に2、3回の入浴支援を行っている。湯温はそれぞれの好みの温度に合わせ、菖蒲湯やゆず湯で季節を感じられるよう工夫している。ただし、更衣は毎日行っているものの、入浴日以外の清拭は体調が悪い時に行うに留まっている。また、業務日誌と個人記録簿からは入浴の支援状況が確認できない。	重要事項説明書には、原則として週3回の入浴または、清拭を実施するとの記述がある。利用者の清潔保持や入浴状況について支援内容を検討するとともに、支援が把握できるよう、記録方法の工夫・検討が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動やレクリエーションを行い、夜間の安眠につなげている。また昼食後は、しばしば居室で休んでもらい、足を休ませるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬管理表を作成し、必ず記録・確認・把握するようにしている。また、服薬管理マニュアルを作成し、それに従って服薬支援を行っており、薬の効能・副作用が毎回確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った手伝いを行ってもらい、人の役に立てるといふ喜びを感じて、生活に張り合いを持てるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に応じて、ホーム内ピクニックやホームの周辺を散歩している。また、家族の協力も得て、受診など外出の機会を増やしている。	日頃からホーム周辺を散歩したり、車椅子の利用者もリビングからスロープを使って庭へ降り、気分転換を図っている。正月には初詣、夏は前庭での夕涼み会、秋は神社の神輿見物に出掛けている。コロナ禍であっても、車でツツジや紅葉見物、観光名所に出掛けており、積極的に外出支援を行っていることは、高く評価できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望がある場合は、手元にお金を所持している利用者もあり、買い物時に自身で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人による年賀状の支援や、毎月一回職員が手紙と写真で様子を伝えており、電話の希望があれば電話で会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの眺めがよく、朝日から夕日までを見ることができ、時間を感じられる環境である。また明るさ・温度・湿度に気を配り、季節の物や手作りの物を飾るなどして、快適な空間作りに心掛けている。	リビングは自然光が射し明るく、海に沈む夕日が利用者と職員を和ませる絶景である。庭に干した柿や大根、草木から季節を感じることができる。仏壇に手を合わせお経を唱えたり、家事を手伝ったり、新聞を読む等、在宅時の暮らしを継続している様子が窺える。職員が毎日清掃と換気、消毒を行い快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者の配置を考え、それぞれが自由にゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や馴染みの物を置いてもらい、居心地の良い居室づくりに心がけられている。	持ち込み品に制限はなく、家族写真や時計、テレビや家具等自由に配置している。家族から届く雑誌や愛用の化粧品、ホームからのプレゼント等も飾っている。また、担当職員が衣替えや居室の片づけを手伝っている。加湿器を設置し、毎日の清掃により快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて、手すりや目印になるものを設置・掲示して、できるだけ不安な物は置かないようにしている。		